

畜産みやぎ

発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 木村春雄

印刷所
 (株)東北プリント



20th 牛乳・乳製品フェア ミルクランド2006
 (写真提供 宮城県牛乳普及協会)

もくじ

CONTENTS

平成18年度生乳需給状況について2	第46回仙台牛枝肉共進会終了報告10
家畜防疫対策『豚コレラ』研修会について3	牛乳・乳製品フェア開催報告される “20th ミルクランド2006”10
県内の堆肥センターについて4・5	<実践大生校生の抱負>「将来の夢」11
BSE発生防止のための飼料規制について6	<衛生便り> アカバネ病について11
宮城県肉用牛改良方針について7	学校に牛がやって来た!! 触って、乳しぼり、 そしてバター作りなど体験12
<畜試便り> 新ランドレース種系統造成について8・9	

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール info@mygchiku.or.jp

平成18年度生乳需給状況について

東北生乳販連宮城支所 みやぎの酪農農業協同組合

平成18年度上半期の全国の受託乳量は、3,943,609ト(前年比98.0%)となり2.0ポイント前年を下回っています。地域別にみますと、北海道の上半期の受託乳量は、1,868,318ト(前年比98.0%)となり2.0ポイント前年を下回り、昨年の7月以降、5月まで11ヶ月連続で前年を上回っていましたが、6月以降は前年を大きく下回り減産型へと移行しています。一方、都府県の上半期の受託乳量は、2,075,291ト(前年比98.0%)と2.0ポイント前年を下回り、昨年の12月以降、10ヶ月連続で前年割れとなっており、直近では北海道と同様に前年を大きく下回っています。

東北の上半期の受託乳量は352,481ト(前年比98.0%)と2.0ポイント前年を下回っています。17年度下半期は、ほぼ前年並みで推移していましたが18年度に入り全国の状況と同様に減産計画生産が浸透してきています。各県別にみますと、一部の県を除き前年を大きく下回って推移しています。

一方、上半期の用途別販売実績は、飲用牛乳向けが258,944ト(前年比96.0%)、はっ酵乳向け等が29,658ト(前年比97.1%)、および特定乳製品向けが46,819ト(前年比109.1%)となっています。飲用牛乳向けは、16年8月以降、26ヶ月連続で前年を下回って推移しており減退傾向に歯止めがかかっていません。はっ酵乳向け等は、18年度に入り前年を下回って推移していましたが、直近の2ヶ月は前年を上回っており今後の推移を注視していきたい。

本県の上半期の受託販売実績は、75,135ト(前年比97.7%)と2.3ポイント前年を下回っています。月別推移をみますと18年度当初は、前年水準並みで推移していましたが、直近の3ヶ月は減少幅が大きくなっています。

13年ぶりの減産型計画生産が実施され、上半期が終了しましたが生乳の需給環境に大きな変化はなく、依然として全国的に販売不振が続いています。そのため、特定乳製品向けは直近の2ヶ月が前年を下回っているものの、年末年始における都府県の余乳処理量が昨年同様に厳しい状況になることも危惧されます。また、今年度の加工原料乳は限度数量203万トを5万ト超過する見通しになっており、限度数量を超過した場合、その分は昨年度と同様に国からの補給金は交付されなくなり手取り乳価が低下することになります。

今後、これ以上の需給悪化を招かないためにも、現在の減産型の計画生産を完全に遵守することが重要であります。これまでは計画数量を1%以上下回った場合に課せられていた未達ペナルティーを今年度は適用しないことも検討されています。

さらに、来年度の計画生産の検討も始まっています。今年度の減産努力が公平に反映されるよう、今年度生産実績を反映されない仕組みの検討をはじめとして、特別枠の継続設定、販売基準数量の早期の配分、超過アローワンス(許容幅)の縮小、などを柱とする案が検討されています。

平成18年度全国受託乳量

(単位:ト、%)

団体名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
北海道	306,078	100.4	321,361	100.5	314,079	98.9	316,573	96.8	310,901	95.9	299,328	95.5	1,868,318	98.0
都府県	362,495	98.9	372,344	99.0	348,234	98.4	341,056	97.1	329,249	97.0	321,911	97.7	2,075,291	98.0
全国	668,573	99.6	693,705	99.7	662,313	98.6	657,629	96.9	640,150	96.4	621,239	96.6	3,943,609	98.0

平成18年度県別生乳受託販売・東北用途別販売実績

(単位:kg、%)

県	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
青森	6,872,746.0	99.5	7,040,259.0	99.7	6,472,151.0	98.1	6,520,922.0	93.6	6,433,246.0	95.5	6,254,127.0	93.6	39,593,451.0	97.6
岩手	19,814,527.0	97.2	20,360,519.0	97.7	19,477,315.0	98.1	19,747,092.0	95.7	19,391,479.0	96.8	19,167,586.0	98.2	117,958,518.0	97.3
宮城	12,942,372.0	99.9	13,345,346.0	99.3	12,515,858.0	98.2	12,412,314.0	95.8	12,083,573.0	96.2	11,835,853.0	96.5	75,135,316.0	97.7
山形	3,118,805.5	104.2	3,237,876.0	106.4	3,039,865.3	104.3	3,011,060.9	100.2	2,825,442.6	98.2	2,781,322.1	97.3	18,014,372.4	101.8
秋田	7,757,636.9	98.1	8,149,790.4	99.6	7,697,719.1	98.7	7,801,887.0	98.4	7,644,240.8	101.1	7,426,619.6	99.4	46,477,893.8	99.2
福島	9,324,005.0	99.0	9,818,602.0	100.1	9,367,537.0	100.6	9,236,938.0	97.5	8,987,321.0	97.7	8,567,096.0	95.7	55,301,499.0	98.5
計	59,830,092.4	98.8	61,952,392.4	99.3	58,570,445.4	98.9	58,730,213.9	96.3	57,365,302.4	97.3	56,032,603.7	97.0	352,481,050.2	98.0

県	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
総受託販売乳量	59,830,092.4	98.8	61,952,392.4	99.3	58,570,445.4	98.9	58,730,213.9	96.3	57,365,302.4	97.3	56,032,603.7	97.0	352,481,050.2	98.0
飲用牛乳向け	40,342,028.0	94.2	42,880,583.4	94.2	44,517,623.4	96.8	43,785,733.4	96.1	42,426,978.9	97.5	44,991,521.8	97.0	258,944,468.9	96.0
はっ酵乳等向け	2,473,273.9	95.6	3,338,207.5	99.4	3,603,856.0	93.8	2,273,577.4	95.0	1,027,208.0	97.9	3,305,419.1	96.6	16,021,541.9	96.2
特定乳製品向け	4,581,069.4	92.1	4,948,301.0	91.0	4,801,798.0	97.1	4,908,961.5	91.5	5,204,033.5	101.0	5,213,361.9	111.9	29,657,525.3	97.1
うち委託加工向け	12,141,216.0	119.5	11,300,753.0	130.8	6,421,011.0	113.3	7,089,837.0	100.9	7,028,235.0	93.6	2,837,727.0	72.9	46,818,779.0	109.1
うち委託加工向け	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
生クリーム等向け	2,311,850.0	104.6	2,384,405.0	102.4	2,405,755.0	111.3	2,527,667.0	98.2	2,281,141.0	99.7	2,545,089.0	106.8	14,455,907.0	103.6
チーズ向け	447,029.0	115.3	431,220.0	97.9	417,358.0	99.5	411,685.0	90.6	419,024.0	89.5	439,204.0	107.3	2,565,520.0	99.5
全乳哺育向け	6,900.0	100.0	7,130.0	100.0	6,900.0	100.0	6,330.0	88.8	5,890.0	82.6	5,700.0	82.6	38,850.0	92.3

平成18年度宮城県販売実績

(単位:kg、%)

団体名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
みやぎの酪農	7,120,877	101.3	7,344,257	100.9	6,847,033	98.4	6,708,398	95.4	6,583,215	95.6	6,428,062	96.0	41,031,842	98.0
全農宮城	2,243,967	100.9	2,320,884	100.9	2,188,252	99.8	2,184,965	97.8	2,129,309	99.3	2,077,795	99.1	13,145,172	99.6
宮城酪農	3,577,825	96.6	3,680,205	95.3	3,480,573	97.0	3,518,951	95.4	3,371,049	95.3	3,329,996	96.1	20,958,599	96.0
宮城県	12,942,669	99.9	13,345,346	99.3	12,515,858	98.2	12,412,314	95.8	12,083,573	96.2	11,835,853	96.5	75,135,613	97.7

(業務課 菅原 久義)

家畜防疫対策『豚コレラ』研修会について

宮城県産業経済部畜産課

平成18年11月8日に宮城県獣医師会館で開催した研修会の概要を紹介します。

今回の研修会には、東北各県担当者や県内の獣医師、県内関係機関の職員等約60名が参加し、意見交換がなされました。

現在、豚コレラの防疫対策については、防疫指針が今年の3月31日に公表され、清浄性の維持確認のための調査が全国的に行われています。また、指針には危機管理体制の構築として、関係機関と防疫措置の打合せや発生時を想定した防疫演習を実施することで、まん延防止体制の調整、周知、点検等を行い、万が一の時に円滑防疫措置を講じることが出来るよう努めることが示されています。

今回の研修会では、農林水産省消費・安全局動物衛生課防疫業務班防疫第2係長の西田岳史氏を講師に「これからの豚コレラの防疫対応について」というテーマで、豚コレラの世界的情勢やH16年に発生した鹿児島県での発生事例における防疫措置、防疫指針の概要について紹介して頂きました。また、国が備蓄している防疫資材並びに予防液の状況についても紹介がありました。豚コレラ予防液は、全国で8ヶ所（東北地区では宮城県内に15万ドーズ）で備蓄されていることについて説明がありました。また、口蹄疫、トリインフルエンザ、牛疫ワクチンや防疫資材等の備蓄状況についても紹介がありました。

次に「豚コレラの発生を想定した防疫演習」では、と畜場から本病を疑う豚を発見し、家畜保健衛生所へ通報があったとの想定で、と畜場並びに出荷農場での初動防疫措置、本病確定後及びワクチン接種を想定した時の対応の演習を畜産課家畜改良衛生班により行いました。演習の設定の中には、他の農場から搬入された出荷豚の取扱いや施設内での防疫措置についての措置についても示しました。

さらに、「豚コレラの病性について」というテーマで仙台家畜保健衛生所病性鑑定班の西主任主査から、豚コレラの臨床症状、病変や診断方法について説明がありました。教科書には脾臓の出血性梗塞は典型的所見として記載されていますが、感染実験例では27%程の出現率であり、膀胱での点状出血や脳の充血、リンパ節のび慢性出血が70%ほど出現するとの説明がありました。また、県内のサーベイランス実施状況の説明があり、平成17年度では、農場並びに出荷豚等の抗体検査を1,620頭実施し、すべて陰性を確認しているとの報告がありました。

最後におこなった総合討議では、鹿児島での事例について、検討状況や家畜防疫互助基金の交付状況について説明がありました。検討状況については事例検証チームにより行われており、1例目は未承認ワクチンの接種との聞き取り情報はありました物的証拠は無く、断定はされていないこと、全ての農場（全5例）について衛生対策の不備も指摘されているとのことでした。また、家畜防疫互助基金の交付については加入していた4農場に交付されています。1例目の農場も加入しており交付すべきか検討しましたが、前述の検証チームの結果から、交付認定委員会で交付が了承されたため交付されたとの説明がありました。

最後に、本病の早期防疫対応のためには、日々の衛生対策はもちろんのこと、早期発見・早期通報、迅速な防疫対応が重要です。異常豚を発見した際には、家畜保健衛生所への通報をよろしくお願いします。

(家畜改良衛生班 高橋 幸治)

県内のたい肥センターについて

宮城県産業経済部畜産課

○畜産環境を取り巻く情勢

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」(以下「法」)が平成16年11月に完全施行され、家畜の排せつ物はたい肥舎や貯留槽などの法で定められた基準に基づいた施設での管理が必要になりました。農業者や関係機関の皆様の努力もあり、平成17年12月1日現在の調査では、シートを使うなどの簡易的な対応も含めて、法適用農家2,289戸の全てで法の基準を満たした施設で家畜排せつ物の処理を行っています。

○たい肥センターの特徴

これらのたい肥センターは、ほとんどが攪拌装置を備えて強制発酵させている施設です。各たい肥センター間でのたい肥の違いは、主に原料となる畜種構成や製造時の水分調整に用いた稲わらやもみ殻などの副資材などによってその性状が異なり、それぞれが特徴あるたい肥作りを行っています。また、一部のたい肥センターではコーヒ粕や給食センターなどからの食品残さなど畜ふん以外の原材料も加え、付加価値をつけたたい肥を製造しているところも見られます。

○最近のたい肥センター産たい肥の傾向

たい肥センターで作られるたい肥の傾向としては、窒素等の肥料成分が一般のたい肥に比べ高いものが増えてきており、土壌の物理的な改善のほかに、化学肥料の代替としてたい肥を使い、化学肥料の施用量を少なくする方も増えてきました。また、C/N比(炭素率)が低く、肥効が発現しやすいものが増えてきています。切り返しや攪拌を何度もしてため発酵温度の上昇により病原性微生物や雑草の種子が死滅しており、臭いがほとんどせず、水分が低いので取り扱いやすいというのも共通しています。分析機関による成分分析も行っていますので、施用をする上での参考になります。

○たい肥流通の現状

これらのたい肥センターでは、バラ売りも行いますが、たい肥センターによっては小口需要にも対応できるよう袋詰め製品も生産していますし、最近では、散布しやすいようペレット化して販売しているところも出てきています。多くのたい肥センターでは、たい肥の運搬や散布まで実施しており、労力をかけなくてもたい肥をほ場に散布できる場所も増えてきました。

○たい肥の活用に向けて

みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度に基づいた農産物の栽培面積は、約2,600haとなり、エコファーマー数も4,000人を超え、各地域において環境に配慮した農作物生産が年々拡大してきており、地力の回復や維持のための土づくりは、たい肥の投入が不可欠であり、その役割は益々重要になってきています。

今後、耕種農家が安心して使用できる良質たい肥生産を推進していくとともに、家畜排せつ物を有用な資源と捉え、地域間でバランスをとれるような広域的利活用、散布組織への支援などの体制づくりに努力していきたいと考えていますので、関係者の方々の御協力をよろしくお願いいたします。



(草地飼料班 佐藤 俊益)

平成18年度家畜排せつ物処理施設稼働状況調査 対象施設

番号	たい肥センター名	住所	設置団体	電話番号	主な処理方式	製品原料(畜種別)					製品成分					製品価格(単位:円)				
						乳牛	肉牛	豚	採卵鶏	ブロイラー	副資材等	水分	C/N	N	P	K	バラ	フレコン	袋	備考
1	角田地区有機農業センター	角田市豊室字豊里131	JAみやぎ仙南	0224(55)1111	ロータリー		●	●		●	もみ殻、コーヒークサ	45.0	15	1.32	2.16	1.63	5000/t	6000/0.5t	441/20kg	税込
2	黒佐野堆肥センター	丸森町字鳥屋120	丸森町	0224(72)2111	堆肥舎	●					もみ殻、オガクズ等						500/t			員内
3	筆歩堆肥センター	丸森町字鳥屋120	丸森町	0224(72)2111	堆肥舎															
4	峠堆肥センター	丸森町字鳥屋120	丸森町	0224(72)2111	堆肥舎															
5	JA生出堆肥センター	仙台市太白区坪沼字寺山18-1	JA仙台	022(297)5361	ロータリー		●				オガクズ等	65.8		2.67	3.14	2.83	4500~7500/mf			税別
6	エコ・マックスせんだい	泉区福岡字岳山7-2地内	根白石有機肥料生産組合	022(379)2363	ロータリー	●					もみ殻、オガクズ等		10	2.2	4.9	4.6	5000~9000/mf			税・運搬込
7	JAあさひなオーガニックプラント	大郷町大松沢字業研沢堤下11	JAあさひな	022(359)3132	スクープ		●				もみ殻、オガクズ等	54.0	16	2.42	5.17	2.9	8000/t	4000/0.5t	430/20kg	税別
8	涌谷町土づくりセンター	涌谷町上郡字玉崎山	ECO有機利用組合	0229(43)2111	通気型たい肥舎	●	●	●	●	●	もみ殻、オガクズ等			0.71	0.81	1.26	1000/t			
9	Hi-soft21通木リサイクルセンター	田尻町通木字田中前119-4	Hi-soft21通木	0229(39)7799	ロータリー			●			もみ殻、オガクズ等	39.2	12.54	1.86	2.83	2.15	2500/t		300/15kg	
10	沼部エコセンター	田尻町沼部	沼部エコセンター		ロータリー			●			もみ殻、オガクズ等						1000/t			
11	栗原市築館有機肥料センター	栗原市築館字照越盲塚29-91	栗原市	0228(22)1114	スクープ	●	●			●	もみ殻、オガクズ等	41.0	14	2.0	3.0	3.2	3500/t		350/15kg	税別
12	金成有機センター	栗原市金成末野下浦山9-7	栗原市	0228(42)1114	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等						3500/t		350/15kg	
13	迫有機センター	登米市迫町新田字井守沢153-1	登米市	0220-34-2706	パドル	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	35.0	10	1.6	3.84	3.84	3150/t		336/15kg・P525/35%	Pはベレット
14	中田有機センター	登米市中田町上沼字中田町地内	登米市	0220-34-2706	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	52.0	11	1.1	1.5	1.4	3150/t		336/35%	税込
15	石越有機センター	登米市石越町南郷字新高46	登米市	0220-34-2706	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	45.0	10	2.7	4.2	2.6	3150/t		336/35%	税込
16	南方有機センター	登米市南方町新嶋峯1	登米市	0220-34-2706	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	44.0	11	1.2	1.5	1.5	3150/t		336/35%	税込
17	豊里有機センター	登米市豊里町三番江28	登米市	0220-34-2706	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	45.0	9.1	1.21	1.6	1.54	3150/t		336/35%	税込
18	米山有機センター	登米市米山町西野字新石川4-1	JAみやぎ登米	0220(23)1603	通気型たい肥舎		●	●			もみ殻、オガクズ等	35.0	10	2.8	5.9	3.7	3150/t		336/35%	税込
19	本吉町有機肥料センター	本吉町角柄15-4	本吉町	0226(42)2600	スクープ	●	●	●			もみ殻、オガクズ等	35.0	9.7	2	3	2.7	4500/t		300/40%	税別
20	石巻市河北大川堆肥センター	石巻市針岡字別圃223-30	石巻市	0225(62)2114	スクープ		●	●		●	もみ殻、オガクズ等	28.3	12	2.7	4.4	3.6	2500~3500/t		350~450/15kg	税別
21	石巻市河北大谷地堆肥センター	石巻市小船越字三番江一番地	石巻市	0225(62)2114	通気型たい肥舎	●	●				もみ殻、オガクズ等	47.3	34	1.4	2.87	1.49	1000~1500/t			税別
22	石巻市かなん有機センター「ゆうきくん」	石巻市広瀬字四工区1	石巻市	0225(72)2114	スクープ	●	●	●		●	もみ殻、オガクズ等									
23	石巻市桃生堆肥化処理センター	石巻市桃生町神取字観音田266-1	石巻市	0225(76)2111	ロータリー		●	●			もみ殻、オガクズ等	45.3	17	2.17	2.84	2.93	1000/mf		400/15kg	税込
24	石巻市北上堆肥センター	石巻市北上町女川字石神66	石巻市	0225(67)2116	ロータリー	●	●				もみ殻、オガクズ等	37.9	15	1.1	1.8	2.1	2800~3550/t		360/15kg	税込

BSE発生防止のための飼料規制について

宮城県産業経済部畜産課

国内でのBSE発生防止対策として、牛、めん羊、山羊等の反すう動物用飼料等の規制がなされており、現在、県では現場における飼料規制の遵守について、調査・指導を実施していますので、その概要を紹介します。

BSE発生防止のためには、原因とされる牛等に対する反すう動物由来たん白質の給与を排除するとともに、飼料への交差汚染による反すう動物由来たん白質の混入を防止する必要があります。こうした観点から、飼料安全法第3条第1項に基づき、牛等を対象とする飼料は、ほ乳動物、家きん及び魚介類に由来する「動物由来たん白質」を含んではならない等の成分規格が定められています。この成分規格の実効性を確保するため、飼料の製造、保存、表示及び使用について以下の基準が定められています。

- ・飼料の製造について、牛等を対象とする飼料には、動物由来たん白質等を用いてはならない。
- ・飼料の保存について、動物由来たん白質等を含む飼料は、牛等を対象とする飼料に混入しないように保存しなければならない。
- ・飼料の表示について、動物由来たん白質等を含む飼料は、牛等に対して使用してはならない旨を表示しなければならない。
- ・飼料の使用について、動物由来たん白質等を含む飼料は、牛等に対して使用してはならない。

国ではこの規制の遵守を図るため、「反すう動物用飼料への動物由来たん白質の混入防止に関するガイドライン（通称：ABガイドライン）」を定めております。

県では、昨年からの飼料業者や養牛農家等に対し、このABガイドライン遵守状況の調査・指導を実施しており、特に養牛農家等においては、牛と豚・鶏（愛玩鶏を含む）等をともに飼養する農家に重点を置き、以下の事項にポイントを置いて、検査・指導を行っています。

1. 飼料等の受入れ、保管及び給与の各段階においてABガイドラインが遵守されていること、具体的には、
 - 1) 動物由来たん白質の混入がないよう取り扱われているものであることを確認して飼料等を受け入れていること。
 - 2) 動物由来たん白質と牛用飼料等を同時に又は連続して受け入れていないこと。
 - 3) 牛用飼料は専用の容器を用い、又は専用の保管場所を設けて保管していること。
 - 4) 牛に豚・鶏用飼料、ペットフード等を与えていないこと。
 - 5) 牛が豚・鶏用飼料を摂食できないように飼養場所を区分していること。
 - 6) 牛舎等の中で犬、猫等にペットフード等を与えていないこと。
2. 使用した飼料の記帳に努めるよう指導する。
3. 表示の不備等飼料規制の遵守に係る疑義がある輸入飼料が認められた場合は、流通経路を遡り、輸入業者に対して必要な指導を行う。

BSE発生防止のためには、飼料製造・販売業者だけでなく、生産者を含む関係者全員が飼料規制を守っていただくことが重要であり、国産牛肉の安全性確保のため、適正管理に努めるようお願いいたします。

(草地飼料班 柴田 知也)

宮城県肉用牛改良方針について

宮城県畜産試験場
宮城県産業経済部畜産課

昨年度「宮城県家畜改良増殖計画」が策定され、本県肉用牛の具体的な交配方針ができましたので、掲載します。

あなたの牛にはこれがおすすめ!

本県の和牛改良は、茂重波を中心に改良を進めてきましたが、近年の多様なニーズ(例えば増体能力等)に対応するため、多彩な和牛生産が必要となってきています。このことから、茂重波系の維持を考慮しながら、多様な系統、能力を持った種雄牛を活用した交配をすすめるとともに、宮城県としての産地を特長づける交配を推進する必要があります。

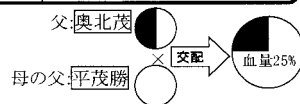
基本方針 (宮城県における黒毛和種の交配方針)

- ①本県の血統的特長.....本県の改良の経過を踏まえ、茂重波系、兵庫系を中心に(血量25%以上を確保)
 - ②近交退化の抑止.....近親交配を避ける(近交係数10%以下)
 - ③系統間交配(双方の能力を補完).....父方母方の双方の能力を補完できる交配
 - ④改良速度の向上.....新しい種雄牛利用による世代交代の推進(優れた育種価を持つ種雄牛の利用)
- ※ ただし、相性、体型等十分考慮し交配することが重要です。

交配グループを定め、その中から最適な種雄牛を選定する。

グループ	名称	交配種雄牛(主な県有種雄牛)	県有種雄牛の血量		基本的な交配対象
			兵庫血量	茂重波血量	
Aグループ	茂重波系統	茂系桜, 奥北茂, 神勝福, 勝緑, 憲藤, 幸重波	38%~69%	25%~50%	血統を選ばずどんな牛にでも
Bグループ	茂重波系統以外の兵庫系統	安敏波, (糸安平)	56%~69%	0~25%	兵庫血量の薄い牛(兵庫血量~50%)
Cグループ	兵庫以外の系統	北光	0%	0%	兵庫血量が濃い牛(兵庫血量50%~)

◎目標は、産子の兵庫血量を25%以上確保する。できれば、茂重波血量を25%以上確保!
 ◎簡単な血量の計算(厳密には、産子の血統図から導き出します)
 例えは、父「奥北茂」(兵庫血量50%)×母の父「平茂勝」(兵庫血量0%)=産子(兵庫血量25%)



あなたの牛は次の①~③のうちどれですか?

①兵庫以外の系統の牛 (近交係数10%を超える組合せはありません。)

あなたの牛(母の血統) (県内の32%がこれらを父に持つ雌牛です)	交配候補	グループ	交配種雄牛(主な県有種雄牛)	産子の血量	
				兵庫血量	茂重波血量
北国7の8, 平茂勝, 金幸, 福桜	第1候補	Aグループ	茂系桜, 奥北茂, 神勝福, 勝緑, 憲藤, 幸重波	19%~	12%~
寿高, 糸光, 第6栄, 第1花園	第2候補	Bグループ	安敏波, (糸安平)	28%~	0%~

②茂重波系統以外の兵庫系統の牛 (近交係数10%を超える組合せはありません。)

あなたの牛(母の血統) (県内の27%がこれらを父に持つ雌牛です)	交配候補	グループ	交配種雄牛(主な県有種雄牛)	産子の血量	
				兵庫血量	茂重波血量
紋次郎, 菊谷, 安平, 高栄, 福栄, 安福165の9, 美津福, 谷茂, 安谷, 福昌, 安金, 恒徳, 安美金, 神高福	第1候補	Aグループ	茂系桜, 奥北茂, 神勝福, 勝緑, 憲藤, 幸重波	32%~	12%~
	第2候補	Cグループ	北光	~50%	0%~25%

③茂重波系統の牛 (全国広しといえど茂重波系統は本県のみ存在 - 貴重な遺伝資源)

あなたの牛(母の血統) (県内の33%がこれらを父に持つ雌牛です)	交配候補	グループ	交配種雄牛(主な県有種雄牛)	産子の血量	
				兵庫血量	茂重波血量
茂勝, 第2波茂, 茂系波, 奥茂	第1候補	Aグループ	茂系桜, 奥北茂, 神勝福, 勝緑, 憲藤, 幸重波	32%~	25%~
茂重波, 秋重, 宮福茂	第2候補	B・Cグループ	安敏波, (糸安平), 北光	12%~	12%~

近交係数10%を超える主な組合せ: 奥北茂×奥茂(13.7%), 神勝福×茂勝(17.7%), 勝緑×茂勝(16.7%), 憲藤×茂勝(19.7%), 神勝福×茂重波(13.5%), 勝緑×茂重波(12.2%), 憲藤×茂重波(16.1%)
 [父×母の父]

茂重波系統同士の種雄牛だからといって近交係数が高くなるわけではありませんよ!

父\母の父	茂勝	第2波茂	茂系波	奥茂	宮福茂	秋重	茂重波	要注意(近交係数が高い交配)
茂系桜	6.0%	4.0%	8.4%	4.6%	4.1%	4.0%	7.9%	母の父が「第7系桜」
奥北茂	6.8%	4.5%	6.0%	13.7%	4.7%	4.5%	9.0%	母の父が「奥茂」
神勝福	17.7%	7.2%	6.8%	7.9%	6.9%	6.9%	13.5%	母の父が「茂勝」, 「茂重波」 特に「茂勝」との交配は要注意
勝緑	16.7%	6.1%	6.1%	7.1%	6.9%	6.2%	12.2%	
憲藤	19.7%	8.4%	8.1%	9.3%	8.4%	8.1%	16.1%	「茂系波」との交配は要注意
幸重波	11.9%	7.9%	16.4%	9.0%	8.0%	12.1%	15.6%	

〈畜試便り〉

新ランドレース種系統造成について

宮城県畜産試験場

ランドレース種やデュロック種等の種豚は、国内種豚農場や国・県などで育種改良を行い、海外ハイブリッド豚会社も国内にGGP農場を運営するなど日本向けの改良を行っています。

このように種豚が国内で生産される体制が確立していることは養豚産業の強みのひとつとなっています。種豚の改良は日本人の嗜好に合わせ、肉が柔らかく、また程よく脂肪がのった豚肉生産に合致する育種が進められてきました。1980年代以降、国主導により各県で系統造成事業が進められ、このことは我が国の種豚全体の能力（産肉性、繁殖性）向上に大きく寄与してきました。宮城県でも、これまで平成元年に完成した「ミヤギノ（ランドレース種雌系）」や平成14年に完成した「しもふりレッド（デュロック種雄系）」を造成してきました。さらに現在、畜産試験場では新しいランドレース種の系統豚を造成しています。

造成開始は平成15年度で、基礎集団のベースの半分はミヤギノを使用していますが、残りは国内外の民間種豚場からの精液の使用、および他県で造成された系統豚を素材として導入しています。改良する形質は、産肉性（一日平均増体量・背脂肪厚）や繁殖性（一腹総産子数）に加え、社会的ニーズとして安全・安心な豚肉が求められていることから、疾病（特にマイコプラズマ性肺炎）に対する抵抗力を取り入れており、薬剤依存から脱却した高生産性系統豚を目指しています。

閉鎖群育種においては、基礎集団を導入したのち外部より新たな種豚を導入せず、集団内で能力検定と世代の更新を繰り返し行います。能力検定は世代ごとの分娩時期を揃えた均一な飼養環境のもとで行い、正確に形質を測定します。各個体の能力評価はBLUP法により行い、産肉性・繁殖性・抗病性に関する総合育種価を用いて、各世代毎雄15頭、雌50頭を選抜しています。

平成18年9月までに第3世代の能力検定が終了しました。検定成績は、DGが雌雄平均で886g（体重30kg～105kg間）、総産子数が12.0頭、マイコプラズマ性肺炎の病変スコア（MPSスコア：肺の面積に対する病変の面積）が2.37となっています。また、完成豚では、DGが900～950g、総産子数が12.5頭、MPSスコアが0になることを目標に改良を進めています。完成は5世代、平成20年度を予定しており、平成21年から本格的に配布する見込みです。

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬（盛岡・水沢開催）1・2月 開催予定表

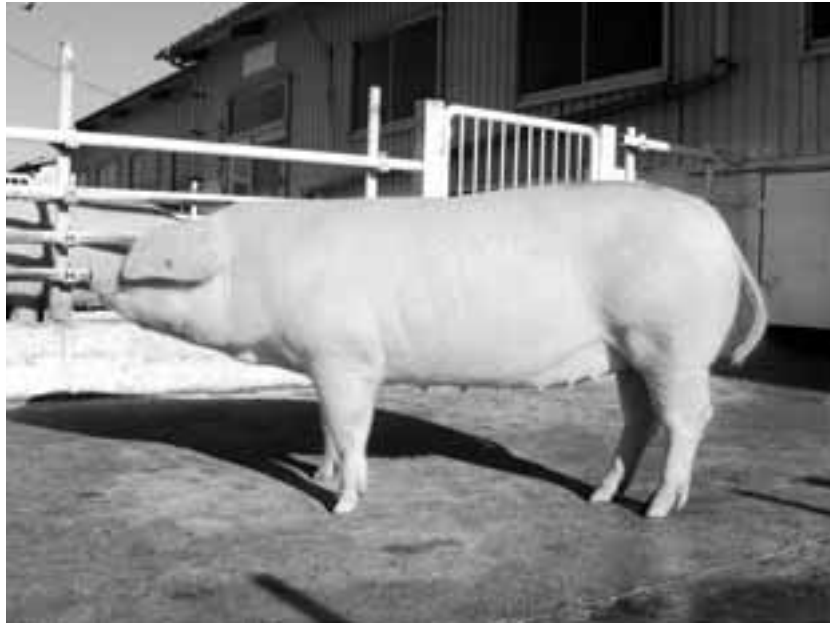
・上段 岩手競馬開催日 ・下段 場外発売開催日

Table with 31 columns (days) and 2 rows (months). It lists the dates and locations for NAR horse racing events in Iwate Prefecture for January and February. Locations include Morioka, Mizuma, and various tracks like Mizuma, Morioka, and Iwate.

※開催期間中の重賞レース

- ・第11回ガーネットステイクス（1月7日 JRA中山） ・第14回平安ステイクス（1月21日 JRA京都）
・第10回TCK女王盃（1月24日 大井） ・第21回根岸ステイクス（1月28日 JRA東京） ・第56回川崎記念（1月31日 川崎）
・第34回佐賀記念（2月12日 佐賀） ・第24回フェブラリーステイクス（2月18日 JRA東京） ・第53回エンプレス杯（2月28日 川崎）

また、当场では、このように新ランドレース種系統豚の造成を進めているところですが、近年、県内に限らずランドレース種豚の供給が不足している状況にあることから、本系統造成の途中世代豚を生産者へ配布しております。平成18年度は終了しましたが、平成19年度の配布時期と価格については、「1産取り」が5～6月に63,000円、「未經産」が10～11月に105,000円（それぞれ税込み）を予定しております。配布予定頭数は、「1産取り」が約25頭、「未經産」が約15頭を見込んでいます。配布希望がございましたら、事前に最寄りの家畜保健衛生所、地方振興事務所畜産振興部へお申し込み下さるようお願いいたします。



第3世代選抜種雌豚

表 第2世代 (H17年度)、第3世代 (H18年度) の検定成績および改良目標

	G 2 成績	G 3 成績	改良目標
一日平均増体量	843.5	886.7	950
背脂肪厚	21.3	23.9	19
MPSスコア	3.95	2.37	0
総産子数	11.8 (G1)	12.0 (G2)	12.5

その他考慮する形質として、AR病変スコア、外陰部スコア及び肢蹄の強健性を設定

(種豚家きん部原種豚チーム 鈴木 英作)

第46回 仙台牛枝肉共進会終了報告

全農宮城県本部

牛乳・乳製品フェア開催される
“20th ミルクランド2006”

宮城県牛乳普及協会

農林水産祭参加 第46回仙台牛枝肉共進会は、11月5～8日の4日間 仙台中央食肉卸売市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

〔チャンピオン牛〕

(第1部)

黒毛和種去勢の部

出品者：佐藤 喜一 (JAあさひな)

血統：父 美津照

母の父 北国7の8

規格：A5 枝肉重量：505.0kg

枝肉単価：7,165円

(第2部)

黒毛和種雌の部

出品者：木村 政義 (JAみやぎ登米)

血統：父 茂勝

母の父 北国7の8

規格：A5 枝肉重量：391.5kg

枝肉単価：5,946円

農林水産祭参加 第45回仙台牛枝肉共進会

第1部 黒毛和種 (去勢)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	119	あさひな	佐藤喜一	美津照	北国7の8	A5	505.0	7,165
最優秀賞1席	94	古川事業所	佐藤幹雄	安平照	茂糸波	A5	420.5	3,662
最優秀賞	63	みやぎ登米	渡辺哲也	奥北茂	紋次郎	A5	469.5	2,973
最優秀賞	86	みやぎ登米	千葉正憲	茂勝	平茂勝	A5	518.0	3,500
最優秀賞	90	仙南事業所	菅生貞夫	平茂勝	美津福	A5	510.0	2,984

第2部 黒毛和種 (雌)

褒賞区分	上場番号	農協名	氏名	血統		規格	枝肉重量	枝肉単価
				父	母の父			
チャンピオン賞	167	みやぎ登米	木村政義	茂勝	北国7の8	A5	391.5	5,946
最優秀賞1席	158	みやぎ登米	佐々木彰	松福美	北国7の8	A5	375.0	5,568
最優秀賞	193	いしのまき	木村君夫	福栄	第1花園	A5	419.5	3,511

10月14日(土)、15日(日)「牛乳・乳製品フェア20thミルクランド2006」が仙台市の勾当台公園において開催されました。

国内の牛乳消費量がここ数年、少子化による家庭内消費の減少や、他の飲料の台頭で落ち込んでいるため、最近の牛乳離れが進む若い世代に自分の食生活を改善しつつ、カルシウム摂取等の最良食品である牛乳・乳製品の消費拡大・知識普及を図るイベントとし、併せて宮城県内の農林水産業及び商工業などの関係団体等並びに地方自治体の協力も得て県産品の展示即売等を行う「まるごとフェスティバル」と共同開催をし、より効果的なイベントを開催致しました。

イベント内容としてミルクランドステージでは、タレントの石黒彩さんを迎えて、食育に関する牛乳・乳製品等摂取の必要性をトークして頂き、子供達が楽しめるNARUTO—ナルト—のキャラクターショー、ぬいぐるみクイズ大会、ミルクキッズパフォーマンス、また大人も満足できるソムリエききちゃ〜&ワイン、手作りバター教室、「食育・3-A-Day講座」等、内容が盛り沢山で大変な賑わいを見せていました。

ミルククッキングスクールでは、大鍋試食会、ミルククッキング料理講習会などの牛乳・乳製品の料理コーナーを実施、また各メーカーによる牛乳・乳製品の試食や販売、ふれあいキッズパークでは乳搾り模擬体験コーナー、ふれあい動物コーナー、そしてミルク情報館では、例年好評の骨密度測定も実施し、調理器具の展示・食事バランスガイド解説パネル展示等、牛乳・乳製品の知識普及等を行いました。今年のイベントで大変好評だったのが宮城県立こども病院に寄付するミルクチャリティーカフェコーナーで、牛乳の新しい飲み方を紹介したミルクドリンクを堪能していました。

天気にも恵まれ、盛会裡のうちに終了した牛乳・乳製品フェア20thミルクランド2006でしたが、低迷する飲用牛乳の消費拡大が十分になされた2日間でした。(村山ひろみ)



〈実践大学生の抱負〉

「将来の夢」

宮城県農業実践大学校
畜産学部2年 猪股奈津美

私は、実践大学校の畜産学部に入學して日々勉學に勤しみ、今年の8月に晴れて家畜人工授精師の免許を取得しました。そして現在11月21日に開催される2級割蹄師の試験に向けて勉強や実習に励んでいます。

私の家は繁殖牛が8頭と少なく、両親は專業で農家を営んでいる訳ではなく牛の管理はほとんどが祖父が担当しています。祖父も若くはないので仕事をするのは大変で苦勞が絶えない様子でそんな祖父の手助けを行い、徐々に自分が主として経営するのが夢です。そのために今できる最善の努力をして我が家の経営に少しでも役に立てるように學問に励んでいます。ということで残り少ない学生生活を悔いの無いように過ごしています。

卒業後はすぐに就農し、自分の人工授精師としての腕を磨くために、知り合いの人工授精師に付いて教えてもらう予定で将来的には自分の家の牛に相応しい種を選定して人工授精していきたいと思います。

今は8頭の繁殖牛しかいないけど将来は30頭から50頭まで増頭して、少しでも良い牛を生産したいと考えています。また、我が家では放牧や運動場がなく、運動不足になりがちなので、それらを設置し、健康な牛を作るとともに母牛の改良にも力を入れていきたいです。

更に私の住む地域では周囲との繋がりが薄く、情報の交換の場も少ないので、私が就農したら畜産に限らず今まで以上より多くの情報交換や地域ぐるみで良い牛を育てていくよう地域との結びつきや絆を深める努力をしていきたいです。そして自分の経営を高めていく努力もしていきたいです。

来年からは自分が経営に携わるので不安もありますが、楽しんで農業に従事できればと切に思います。

〈衛生便り〉

アカバネ病について

大河原家畜保健衛生所

アカバネ病は、アカバネウイルスが蚊などの吸血昆虫を介し、妊娠牛に感染する伝染病です。通常妊娠牛は症状を示すことはありませんが、ウイルスが胎盤を通過して胎子に感染し、死産、新生子の先天性体型異常（関節弯曲症）や大脳欠損症を引き起こします。流行は季節に関連し、夏から翌年の春にかけて続き、流行早期（8～9月）には早産ならびに死産が多発し、中期（10～1月）には四肢や脊柱の弯曲などの体型異常がみられ、後期（2～3月）には大脳欠損症や盲目を示す子牛がみられます。また症状はないが哺乳能力が弱い虚弱子牛もみられます。治療はなく、対策はワクチン接種による発生予防のみです。蚊の発生がはじまる5～7月に接種するとよいとされています。

従来、流行は約10年周期で起き、青森以北では認められないとも言われていましたが、温暖化に伴う吸血昆虫の活動の活発化と生息域の拡大により、近年では1998年から1999年にかけて全国的な大発生があり、北海道での発生も認められました。その後は散発発生例のみ認められていましたが、今秋、九州地方南部を中心に、広範囲に渡るアカバネ病の発生が報告されています。東北地方での発生は西日本の発生後、徐々に広がってくると言われています。現在ワクチン未接種の牛には春から初夏にかけてアカバネ病ワクチンの接種をおすすめします。家畜保健衛生所では毎年4回の抗体調査を行い、今年度宮城県における本疾病の流行は確認されていませんが、今後春先にかけて、分娩時に弯臨床的に類似した異常産の発生がみられた場合にはかかりつけの獣医師または家畜保健衛生所にご連絡下さい。

(防疫班 高森 広典)

学校に牛がやって来た!!

触って、乳しぼり、そしてバター作りなど体験

社団法人 宮城県畜産協会

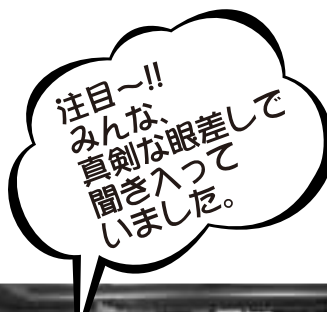
牛と触れ合い、乳しぼりなど体験することで生命の温もりを感じ、“食”への関心を持ってもらうため(社)宮城県畜産協会が事務局を担う、宮城県畜産ふれあい体験交流推進事業の一環として、泉区根白石で酪農(100頭飼養)「ハッピーファーム庄司牧場」の庄司善信さんのご協力により去る、10月23日(月)小雨の降る中、仙台市泉区の市立松陵小学校へ、乳牛3頭(乳しぼりの出来る母牛1頭、哺乳体験が出来る生後2週齢の子牛2頭)とめん羊、山羊、そしてポニー等5種6頭を持ち込み出前牧場の形で開催しました。

当日、児童(79名)と保護者、PTA関係者約150名が参加され、搾乳や子牛への哺乳ビンによる哺乳を体験すると共に、動物との触れ合いを体験していただきました。また、ペットボトルを使いバター作りも体験し、自分の作ったバターをクラッカーにつけ試食をしてもらいました。

また、「うしさんのはなし」と「乳牛と牛乳」のパンフレットを教材にし、明治乳業(株)管理栄養士夏井先生から乳牛はどんな動物か、どんなエサを食べているのか、お乳を出してから乳業工場などで色んな検査を受け、飲用牛乳としてお店や家庭、そして学校の給食に届けられるまでのお話を聞いて児童達は、大変興味を持たれ、触れ合い体験を通じ生命の温もりを感じ、そして“食”への関心を高めた1日でした。



うまく
搾れたよ!!



注目~!!
みんな、
真剣な眼差しで
聞き入って
いました。



ゴクゴク...
おいしそうに
たくさん飲んで
くれたよ!!

(経営支援課)